

(イ) バリューチェーンの構築・強化を通じたコメセクターの開発・発展（コメの価格低下・品質向上と安定的な供給）

- コメ生産農家への適切な営農体系の構築・普及により、農家の生計・生活を向上させ、継続的に生産・販売する素地を作る。
- あわせて、民間セクターとの協調を追求する。流通改善が進み価格が低下しコメの品質が向上することで、市場が求める価格・品質のコメを安定的に供給する体制が整う。
- 精米・保管時の品質向上や流通インフラ、マーケティングの改善により、価格面・品質面で輸入米に対抗できる国産米の競争力が培われる。

(ウ) 政府／開発パートナーによる稲作開発の推進（国産米の国内シェア拡大と農家による生産継続・面的拡大）

- 品質の良い米を安定的に流通できるようにする。販売コストが低下し価格競争力がつくると、販路が拡大し、国産米の需要と国内シェアも拡大する。そのことが農家の生産意欲を刺激し、農家が継続的にコメ生産に取り組み、また生産を拡大していく。そして、更なる栽培面積の拡大、単収の向上、価格の低下・品質の向上を促進し、コメの生産量の増大のスパイラルが加速する。
- これらの取組を推進するため、上記（ア）及び（イ）の成果を各国政府の稲作等に関する政策や戦略へ反映させ、十分な予算と人員を確保するよう働きかける。そして、各国政府主導の稲作開発を促進するとともに、開発パートナーの巻き込みにより面的に展開する。

②小規模農家向け市場志向型農業振興 (SHEP)

背景

- 農家の市場に対する意識を「作ってから売る」から「売るために作る」に変革する農業普及手法
- ケニア技プロでの農家園芸所得倍増成果を受けて、TICAD V オープニングスピーチにおける安倍首相の「『食べるため』から、『稼ぐため』の農業に、変えていきたいのです。」と発言、SHEP広域化の取組みを開始。

TICAD V

- 目標**
 - アフリカ10か国に展開
 - 1,000名の技術指導者、50,000名の小規模農家育成
- 取組み**
 - 課題別研修によるコア人材育成、帰国研修員による実践+広域アドバイザー等による側面支援、技プロによる面的展開・内製化
 - ナレッジマネージメント（理論化（国際協力の心理学、情報の非対称性）、普及員用ハンドブック、SHEPゲーム、インパクト評価、国際WS、HP・Facebook）
- 成果**
 - アフリカ20カ国以上
 - 9,800名の技術指導者
 - 110,000名の小規模農家育成
 - 他ドナー、民間企業等もSHEPに関心



TICAD VII (SHEP 100万人宣言)

課題

- 公的農業普及の限界（人員+予算）
- JICA事業予算の限界

機会

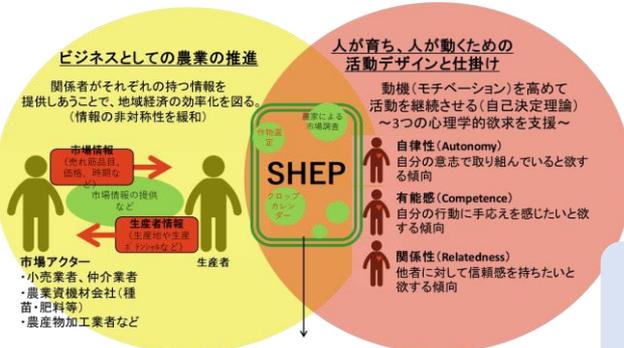
- コア人材（ケニア、マラウィ、ジンバブエ、セネガル等）の育成
- 普及用教材の整備
- 途上国における民間普及の拡大
- SHEPファンの増加（SHEP活用に関するMOU締結）

目標

- 100万人の小規模農家育成
- シナリオ**
 - SHEPに精通するコア人材・普及人材育成
 - SHEPを活用した小規模農家支援事業の拡大
 - 小規模農家支援におけるSHEPのふつつ化（ナレッジマネージメント）
- 協力パートナー**
 - 他ドナー：IFAD、FAO、GFRAS等
 - 民間企業：三井物産+ETG、伊藤忠商事、豊田通商、アフリカビジネス協議会・農業WG
 - NGO：ササカワ・アフリカ財団



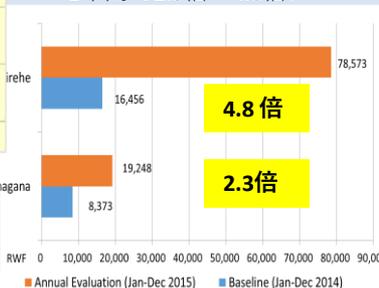
SHEPのコンセプト



SHEP実施後の成果



ルワンダ対象地域での収入向上 <1年間で2.3倍～4.8倍に>



世界展開

